

令和6年度 第4回三重県公共事業評価審査委員会

1 日時 令和6年11月14日(木) 10時30分から14時55分まで

2 場所 橋北公民館 研修室A(アスト津4階)

3 出席者

(1) 委員

岡島賢治委員長、太田淳子委員、清水加奈委員、長岡誠也委員、濱口千穂委員、別府孝文委員、矢口芳枝委員

(2) 三重県

(農林水産部) 農山漁村づくり課 課長 ほか

〃 水産基盤整備課 課長 ほか

(県土整備部) 道路建設課 課長 ほか

〃 防災砂防課 課長補佐 ほか

(伊勢農林水産事務所) 水産室 室長 ほか

(熊野農林事務所) 農村基盤室 室長 ほか

(松阪建設事務所) 事業推進室 室長 ほか

(伊賀建設事務所) 事業推進室 室長 ほか

(尾鷲建設事務所) 事業推進室 室長 ほか

(事務局) 公共事業総合推進本部 事務局長

公共事業運営課 課長 ほか

4 議事内容

(1) 開会

(2) 三重県公共事業再評価実施要綱の改正について

① 事務局・河川課が説明

② 質疑応答

(委員長)

流域委員会では、事業継続の妥当性についても検討するというのでよいでしょうか。

(河川課)

はい。事業区間や全体の事業費、費用対効果について説明し、流域委員会の中で事業継続の妥当性についても検討いただきます。

(委員長)

報告が令和 8 年度とのことですが、その場合、次回の再評価はいつから開始されるのでしょうか。

(公共事業運営課)

河川整備計画の策定・変更日から 5 年を経過した時点ですので、令和 7 年度策定・変更された場合は 12 年度に再評価をおこないます。

(委員長)

この要綱第 2 条の (3) に記載の再評価の年次を超えての委託になるんですけどもそこは何か要綱を変える必要は特にはないのでしょうか。

(公共事業運営課)

河川整備計画の変更に着手した場合は第 8 条を適用するため、問題ありません。

(3) 評価対象事業の審議について

【事後評価】

501番 中山間地域総合整備事業（熊野南部地区）の審議

① 熊野農林事務所から説明

② 質疑応答

(委員)

「営農経費節減効果」がマイナスになっている理由について、教えていただけませんか。

(熊野農林事務所)

これまでにはなかった手間や作業が発生するため、結果として経費がかかってしまう、つまりマイナス効果になります。

(委員)

アンケート調査についてお伺いします。回答選択肢の中に、事業による「悪い影響」を選択できる項目はあったのでしょうか。

(熊野農林事務所)

選択肢の中にはありました。

(委員)

誰もそれには回答してないという結果だったということですか。

(熊野農林事務所)

そうです。

(委員)

この整備をしていただいてこの地区の者としまして本当に良くなっておりまして本当にありがたく思っております。

水害などもある地域ですので、この事業をしていただいたことで本当に環境が良くなり、本当に助かりました。

(熊野農林事務所)

ありがとうございます。

502番 水産基盤整備事業（大淀漁港）の審議

① 伊勢農林水産事務所が説明

② 質疑応答

（委員）

地域住民の方々もこの事業に対して、理解を得て、そして効果も非常に感じられていると思えました。

この前浜の養浜の効果を今後も維持していくためには、どのような維持管理が必要となるのでしょうか。

（伊勢農林水産事務所）

養浜に使用した砂は移動するため、モニタリングで状況を把握していく予定です。今回は区域内の砂を再利用しており、状況によっては砂を戻すことも検討します。定期的な対応が必要になるかはまだわかりませんが、モニタリングを通して適切に対応してまいります。

（委員長）

社会情勢の変化に関して、2016年事業実施中からのデータによると、事業実施前から傾向は変わらないということによろしいですか。

（伊勢農林水産事務所）

明和町の人口はピークは過ぎたものの、微増傾向にありました。今後は減少傾向が予想されますが、こちらの集落においては緩やかな減少となる見込みです。

（委員長）

世帯数が、事業実施区域内でも増えていることで、住民の方は安心感持って住んでいらっしゃるのかなと思いますが、データが事業実施前の2008年ぐらいからあると、より良かったと思えました。

今回の事業は津波・高潮対策という重要な役割を担いますが、事業効果は時と共に忘れられがちです。そのため、事業実施後も、教育機関等と連携し、現場見学会などを開催してはいかがでしょうか。

維持管理の重要性や、環境美化への意識向上を図りながら、事業効果を周知することで、県民の公共事業への理解を深め、ひいては人材確保にも繋がる可能性がありますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

住民の「堤防を1メートルでも高くしてほしい」という要望の重み、切実さを改めて感じました。安全安心に対する率直な願いであり、環境問題も含め、流域全体で住民の安心感に繋がる対策が必要だと感じました。

(伊勢農林水産事務所)

今回の事業は、高潮対策を目的としており、東日本大震災後の津波対策への関心の高まりは認識しています。事業計画時は堤防高は津波高を上回っていましたが、その後のシミュレーションで津波高が上回る結果となったため、住民の方々から不安の声が上がっていることは理解できます。今後は、ハード対策に加え、住民への情報提供などのソフト対策や、関係機関と連携し、住民の方々の理解を求めていきたいと考えています。

(委員)

堤防整備によって住民の安心感が高まっていることは喜ばしいのですが、想定外の災害発生の可能性も踏まえ、安心感を与えるだけに留まらず、防災意識の向上に向けた取り組みも合わせて行っていただければと思いました。

(伊勢農林水産事務所)

委員のご指摘のとおり、防災意識の向上は重要課題であり、継続的な啓発活動が不可欠だと考えています。関係市町と連携し、学校教育や地域住民への啓発活動など、継続的に取り組んでまいります。

503番 道路事業（一般国道166号（田引バイパス））の審議

① 松阪建設事務所が説明

② 質疑応答

(委員)

飯高大橋については、今後、現状のまま整備を行わないのか、あるいは整備に向けて進めていくのか、その経緯についてお伺いします。

(松阪建設事務所)

現在、田引バイパスが完成し、七日市工区の整備を進めており、令和7年度の供用開始を予定しています。さらに東側の松阪市寄りの富永地区との間につい

ても、用地買収が完了し、工事に入る準備が整っています。残るは飯高大橋の用地取得に関し、地権者の方々と交渉を続けているところです。現状、話し合いの機会は得られているものの、ご理解をいただくには至っておりません。しかしながら、事業期間中の整備完了を目指し、引き続きご理解とご協力をお願いしていく考えです。

(委員)

98%の方が事業に満足と回答されているとのこと、大変素晴らしいですね。私もお茶の生産に携わっているのですが、知人のお茶農家の方々からも、道の駅が賑わっているのは道路整備のおかげだと伺い、地域への貢献を実感しました。ただ、橋梁の数が当初の計画から1つ減ったにも関わらず、これほど満足度が高いのは何故でしょうか。住民の方々は、計画変更を認識した上で、現状の7つの橋で十分だと感じていらっしゃるのでしょうか。それとも、橋の数の変化をあまり意識されていないのでしょうか。住民の方々の意識をもう少し詳しくお聞かせください。

(松阪建設事務所)

個別に確認したわけではありませんが、以前の国道166号は大型車等の通行が多く危険を感じていた住民の方々にとって、今回の整備により生活道路と分離されたことで安心感が得られ、満足度に繋がっていると考えられます。また、今後は残る区間も順次整備を進めていく予定であり、最終的には栗野橋を含めた形で完成することで、住民の皆様の満足度はさらに高まるものと確信しております。

504番 道路事業（一般国道422号（三田坂バイパス））の審議

① 伊賀建設事務所が説明

② 質疑応答

(委員長)

バイパス開通による道路混雑の緩和は体感的に感じられますが、費用対効果分析の結果からは、費用便益比がそれほど高くないという結果が出ています。この乖離が生じている要因について、ご説明をお願いします。

(伊賀建設事務所)

費用便益比が想定より高くなっていない理由として、事業コストが影響していると考えられます。具体的には、1.5kmのトンネル掘削や8つの橋梁建設に、費用を要したことが挙げられます。

(委員)

アンケートの回収率についてお伺いします。今回の事業効果に関するアンケートでは、回収率が約37%と、いずれの調査項目も40%を下回っています。一般的に、公共事業に関するアンケート調査では、4割程度の回収率が標準的な数値なのでしょうか。

(伊賀建設事務所)

4割ぐらいになると思われれます。

(委員)

小動物の移動を考慮した構造になっているようですが、このような設計は初めて見ました。この事業独自の取り組みなのでしょうか。

(伊賀建設事務所)

この区間には、山間部で産卵するカエルが生息しており、専門家から生息域と産卵場所を移動できるよう配慮を求める意見がありました。そのため、今回設置した溝は、カエル程度の大きさの動物であれば移動可能な構造になっており、環境へ配慮できたと思われれます。

(委員)

今回のアンケートでは、概ね肯定的な意見が多く見られましたが、事後評価は今後の事業の参考にすることが重要です。そこで、ゴミや空き缶に関する意見以外に、他に住民から寄せられたネガティブな意見があれば、具体的に教えてください。

(伊賀建設事務所)

住民からは、道路整備によって走行性が向上したことで、一部の車両の速度超過を指摘する意見が寄せられています。

(委員)

先ほどの委員と同様の質問ですが、事故発生件数についてお伺いします。運送

業の立場から申し上げますと、整備された道路は走行時間の短縮に繋がり大変有用です。しかし、事故発生件数に変化がないとのことですが、どのような原因が考えられますか。

(伊賀建設事務所)

整備前の道路では、道幅が狭く見通しが悪い区間での事故が多発していました。整備後は、見通しの良い区間が多くなったものの、速度超過による事故が発生しており、結果として事故発生件数に大きな変化がない状況です。

(委員)

Web アンケートと利用者アンケートの結果についてお伺いします。Web アンケートでは、道路整備に対する不満の声が多く寄せられていますが、この結果をどのように分析・評価されていますか。

(伊賀建設事務所)

Web アンケートと利用者アンケートで結果に差が見られるのは、回答者の属性の違いが影響していると分析しています。Web アンケート回答者の多くは地域外の方であるのに対し、利用者である地域住民は道路開通による利便性向上を実感していることから、アンケート結果に差が生じたと考えられます。

505番 砂防事業（薬王寺谷川）の審議

① 松阪建設事務所が説明

② 質疑応答

(委員)

この事業の費用対効果は4.08と、ずいぶん大きな数字になっていますが、これは妥当な数字なのでしょうか。

(松阪建設事務所)

この指標は、事業にかかったコストを分母に、守られた資産価値などの便益を分子にして算出しています。今回は病院や田んぼなど、守られたものの価値がコストを大きく上回ったため、4.08という高い数値になりました。

(委員)

この砂防堰堤が完成した後、子どもにとって危険な遊び場になってしまう可能性はないでしょうか。具体的には、子どもが容易に堰堤にアクセスできてしまうのか、また、そうした事態を防ぐための対策は何か講じているのか教えてください。

(松阪建設事務所)

堰堤にはフェンスを設置しており、子どもが容易に近づけないようになっていますので、ご安心ください。

(委員)

アンケート結果で、近隣の溪流への事業展開を期待する意見が見られましたが、具体的に住民の方々はどのような事業を期待しているのでしょうか。

(松阪建設事務所)

今回の事業対象地域以外にも、周辺には整備が必要な溪流が多く存在します。アンケートでは、土砂災害の不安を解消するため、近隣の溪流でも同様の砂防堰堤設置などの事業を継続してほしいという要望が住民から寄せられました。

(委員)

アンケート時期が不明ですが、土砂が出てこなくなったとの意見がありました。堰堤完成後に土砂災害は発生したのでしょうか。

(松阪建設事務所)

アンケートは令和6年6月に実施しており、堰堤完成後に2回大雨を受けていますが、いずれも土石流は発生しておりません。このため、アンケート結果に土砂が出てこなくなった旨の回答があったと考えられます。

(委員)

住民の方々から、子ども向けの見学会開催を希望する声が上がっています。林道事業や砂防事業に限らず、今後、公共事業全体として見学会などの地域住民への情報発信に取り組んでいく予定はありますでしょうか。

(松阪建設事務所)

道路事業や砂防事業などにおいて、小学生を対象とした見学会をすでに行っています。公共事業の役割を理解してもらうためのよい機会と考えており、今後

も様々な事業で、地域や対象者に合わせた見学会を開催していく予定です。

(委員長)

景観配慮に関する記述について伺います。堰堤付近に設置された盛り土は、景観への配慮を目的として作られたのでしょうか。それとも、管理用道路建設のために必要な盛り土によって、結果的に堰堤が目立たなくなったという理解でよろしいでしょうか。

(松阪建設事務所)

盛り土は管理用道路の建設のために必要なものでしたが、結果的に堰堤がその陰に隠れる形となり、周囲の景観に配慮した形となりました。

(委員長)

管理用道路の設置によって、堰堤が隠れ、周囲の景観に配慮された点は、大変参考になりました。この事例は、今後の事業における参考にすべき優れた事例であると考えます。

506番 急傾斜地崩壊対策事業（長島地区）の審議

① 尾鷲建設事務所が説明

② 質疑応答

(委員長)

擁壁の設置や法枠工での自然環境や景観への配慮の評価はなかなか難しいと思ったのですが。

(尾鷲建設事務所)

自然環境への配慮として、コンクリートの照り返しを抑えるため、黒系の顔料を加えてグレーにすることで、周囲への影響を低減するように努めました。

(委員)

今回の事業では、のり面が山からコンクリート製のものになることで、雨水の流出が急増し、下流域に影響が出ることが懸念されます。実際に、下流住民の方々から、そのような懸念の声は寄せられていますでしょうか。

(尾鷲建設事務所)

下流住民へのアンケートでは、排水や雨水に関するご意見やご要望は特にありませんでした。また、流量増加に対応できる排水設備を設けるとともに、のり枠内側を植生することにより、雨水の浸透を図っております。

(4) 答申

関係資料 委員会意見書参照

(5) 閉会